



空港連携ワンセグ・サービスによるビジネスモデルの確立

ホワイトスペースの活用など新たな電波の利用方策に関する提案

2010.04.09

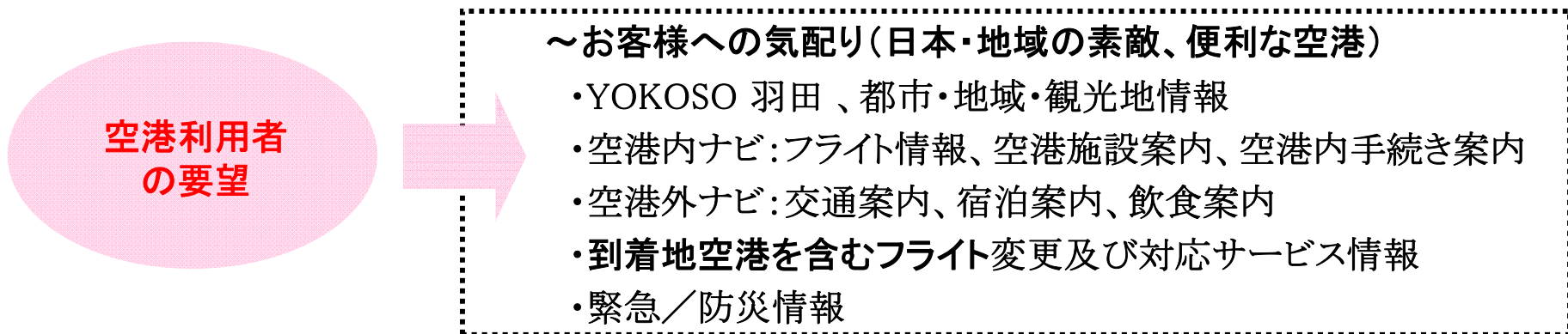
日本空港ビルディング株式会社

1. 空港連携ワンセグ・サービス

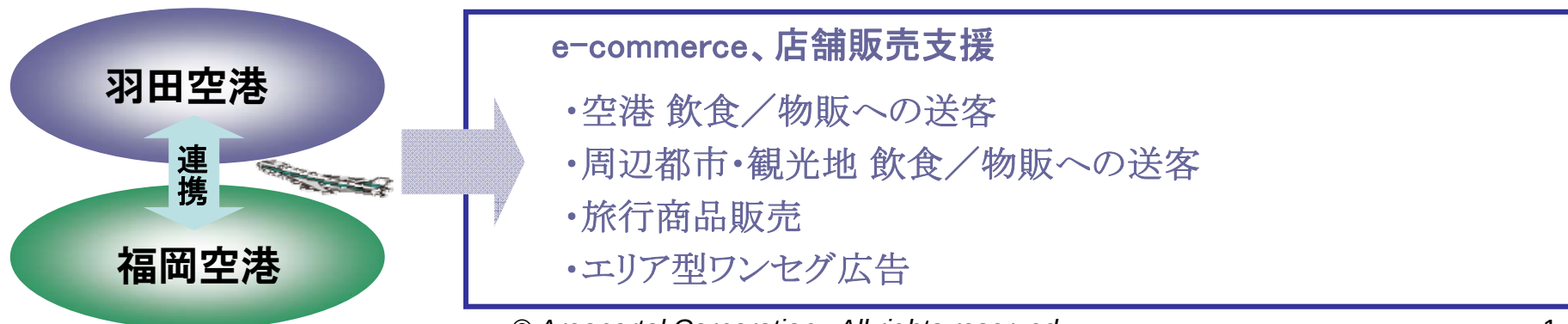
市販のワンセグ、及びマルチワンセグ対応端末を対象とした空港連携ワンセグ・サービスを平成 20、21年度総務省ユビキタス特区事業で検証。(福岡空港連携)

国内外空港利用者サービスの向上に加え、国内外空港、周辺都市、観光地への送客を行い、空港特有の免税品を含む物販・飲食、観光商品、関連商品の紹介・販売、広告による事業モデル実現可能なサービスを構築します。

○ 国内外空港利用者サービスの向上

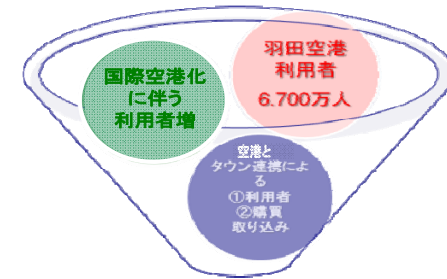
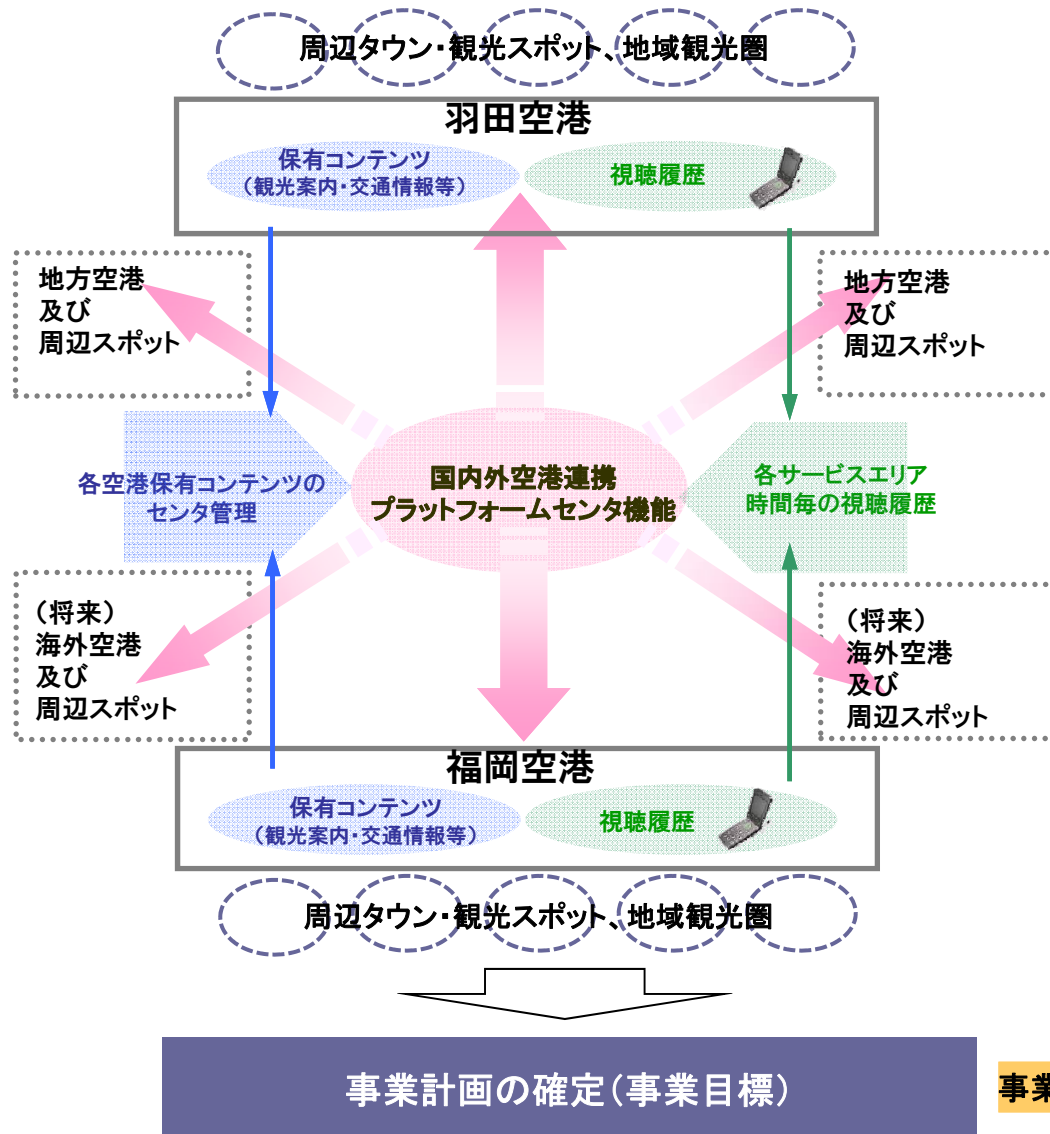


○ 空港連携送客(収益型)サービス



2. 空港連携ワンセグ・サービス プラットフォーム

■ プラットフォーム概要



○ 今後の活動予定(検討中) P6～8参照

【事業検証の実施】

- ①地域振興: 地方空港・地域コンテンツ連携
- ②地域振興: 駅ターミナル、鉄道等の公共交通連携
による集客支援
- ③空港連携ワンセグ・サービスのグローバル化

プラットフォームの充実

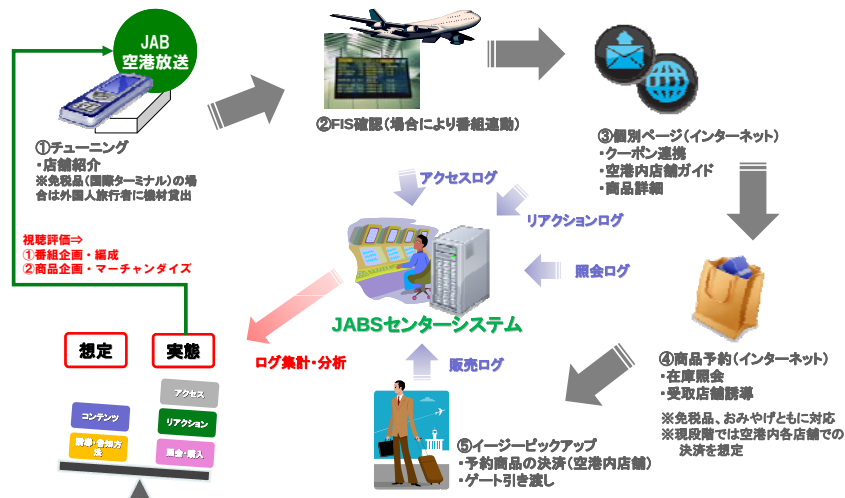
■ 本プラットフォーム利用事業者(候補) ～プラットフォームによる送客先

- ・国内外主要空港
- ・都市中心市街地、地方都市
- ・観光地: VISIT JAPAN 対象30地区
- ・公共交通、駅ターミナル
- ・テーマパーク
- ・大型催事場
- ・その他

(1)総務省ユビキタス特区事業 実施事項

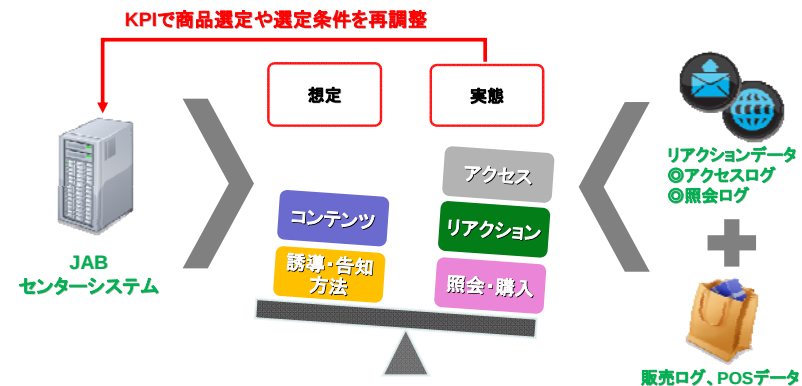
3. 事業モデル

■ サービスモデル：視聴者循環型購買支援(例：免税品)

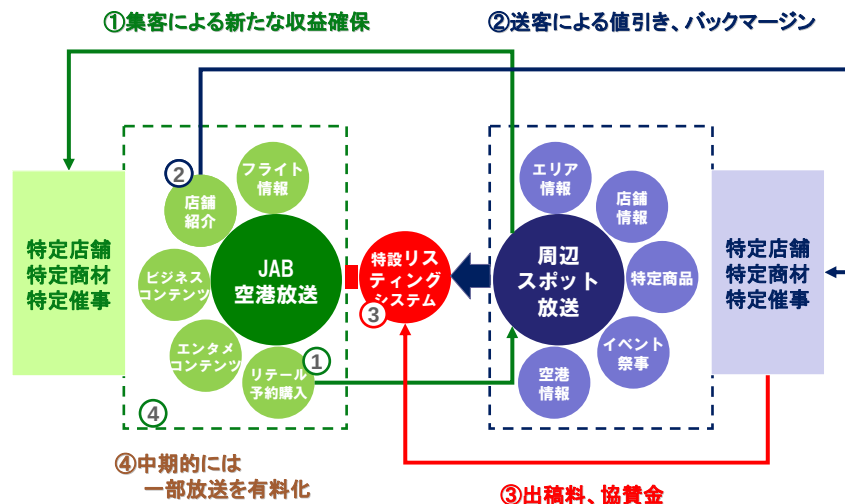


■ 評価モデル：需要連動型出品・マーケティング

視聴者循環型購買支援(サーキュレーション・モデル)を支える
需要連動型出品＝ムービング・ストライク



■ 収益モデル：周辺スポットとの連携モデル



○ 事業計画策定のための実業データの考察

1. 国内物販

① 物品販売データ

⇒羽田空港国内線ターミナル内 単品売上高データ
(2009年4月～2010年2月。月次全品データを再分析)

② 購買者属性(行動データ)

⇒羽田空港 CS調査 実績データ
(2007年11～12月実施/1992回答回収、2008年12月実施/2005回答回収 全データを再分析)

2. 免税品販売データ

① 物品販売データ

⇒羽田空港国際線ターミナル内 単品売上高データ
2009年2月～2010年1月。月次全品データを再分析)

4. 事業計画策定の前提要件 売上費目

①集客による新たな収益確保

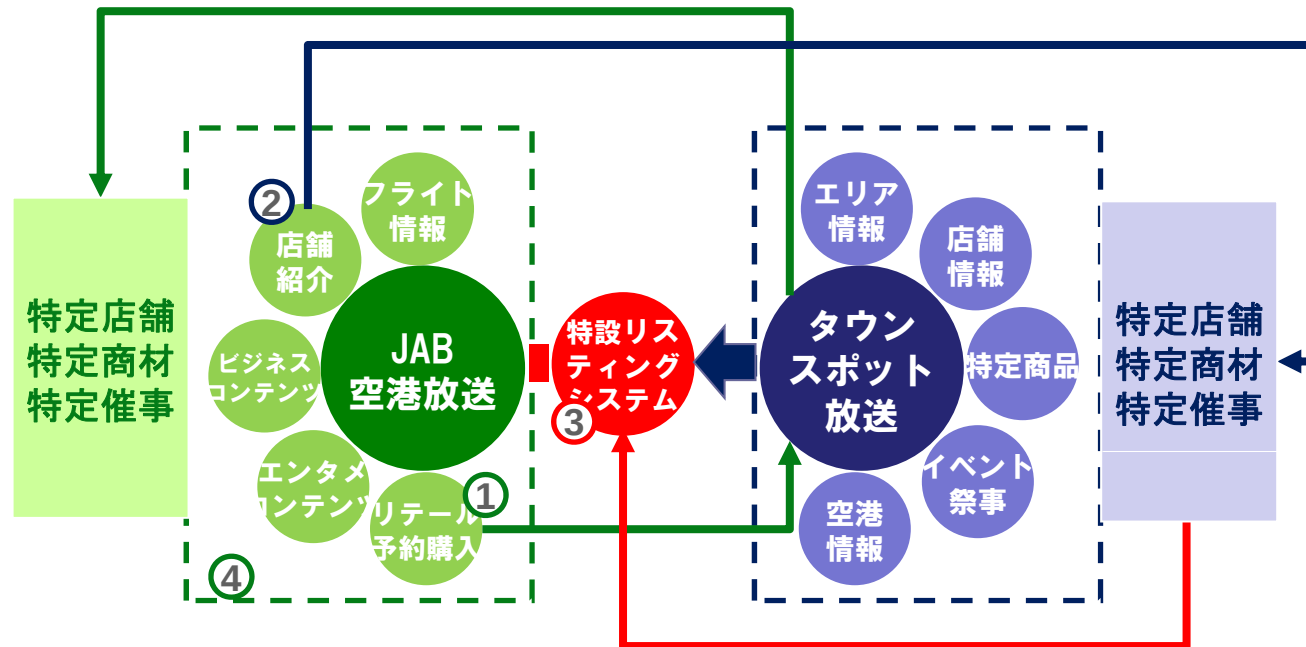
ショッピングナビ=REPLACE

- ✓ 購入場所を変えることで新たな売上費目の創出
- ✓ 交通ターミナルとしての利便性

②送客による値引き、バックマージン

ムービングストライク=REUSE

- ✓ 構成要素により想定する「オススメ」が変わる
- ✓ 既存システム(FISやPOS)と連動する仕組み



④空港をもっと紹介(一部有料)

告知機能=REACH

- ① 既存の「お土産」物販を活性化
- ② 施設内店舗のプロモーション事業の機会創出

③外部商材のリスティング

告知機能=REACH

- ① 既存の「お土産」物販を活性化
- ② タウンスポット内店舗のプロモーション事業の機会創出

5. 事業準備ロードマップ

平成23年度、事業化に向けた準備作業をロードマップ化。(詳細を検討中)

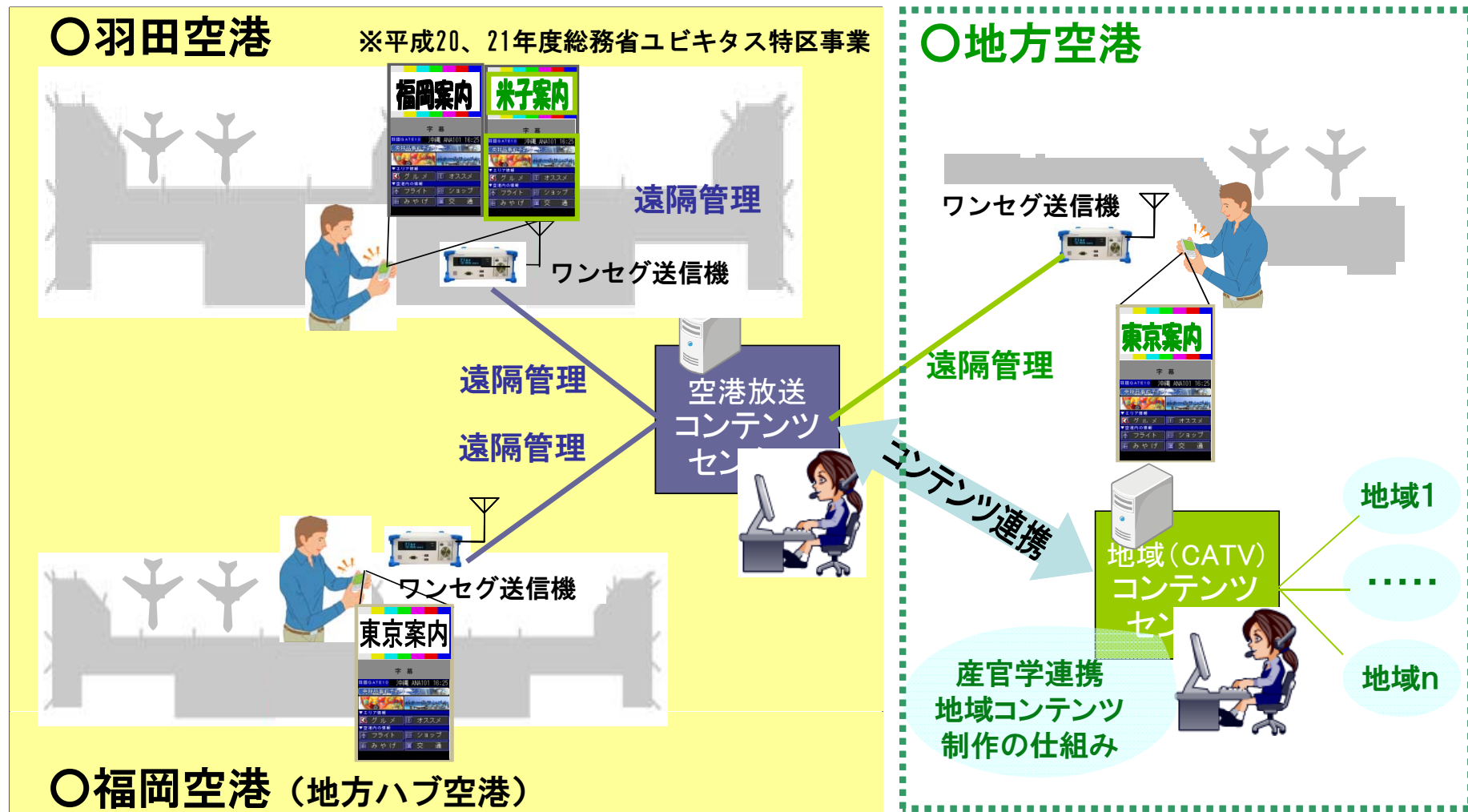
	平成21年度	平成22年度						平成23年度
	3月	4月	6月	7月	9月	10月	3月	
概要								
事業化検討・準備 重点実施事項 差別化システム			事業体制、財源調達			同左、継続実施		
			関連事業者連携、対象店舗交渉、需要連動マーケティングシステム、等			同左、継続実施		
① 地域振興： 地方空港・地域コンテンツ連携 (検討中)			地方空港・地域連携 サービス・システム検討		羽田第1ターミナル及び 地方空港工事		羽田空港 第1ターミナル サービス検証(実験局) 地方空港・地域サービス 検証(実験局)	
② 地域振興： 駅ターミナル、新幹線 (公共交通)連携による集客支援 (検討中)			駅ターミナル、公共交通連携 サービス・システム検討		羽田第1ターミナル及び 駅ターミナル工事		羽田空港 第1ターミナル、 駅ターミナル、新幹線(公共 交通)連携サービス検証	
③ 空港連携 ワンセグ・サービスのグローバル化 (検討中)			・中国人団体ツアー客を対象とした サービス検討 ・新国際線ターミナルシステム検討		新国際線ターミナル工事		現国際線ターミナルでの サービス検証(実験局)	

(2) 今後の活動予定

①地域振興：地方空港・地域コンテンツ連携

地域コンテンツとの連携を図ります。地域コンテンツを空港ワンセグ・サービスで配信、地方への送客支援を行います。

本サービスによる収益が地域コンテンツ制作財源の一部となることが期待されます。



(2) 今後の活動予定

②地域振興：駅ターミナル、鉄道等の公共交通連携による集客支援

地域観光コンテンツとの連携を図ります。観光コンテンツの

(1) 駅ターミナル：ワンセグ・サービス配信

(2) 新幹線内：データ放送コンテンツの携帯電話網高速通信配信

により、目的地までの継続的な送客支援が可能となります。

本サービスによる収益が地域観光コンテンツ制作財源の一部となることが期待されます。



(2) 今後の活動予定

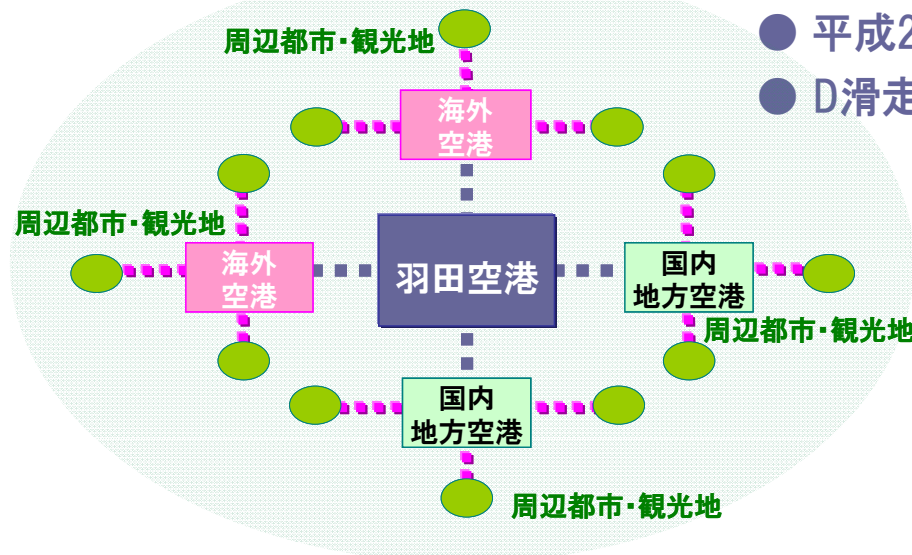
③空港連携ワンセグ・サービスのグローバル化

国内外空港での空港ワンセグ・サービスの実施(或いはコンテンツ連携)によりグローバルな送客システムを構築することが可能となります。

海外空港では、各国ごとの特殊性が想定されるため、特定空港との連携サービスの検証を行うことが必要と思われます。

【羽田空港】 年間発着能力:30.3万回/年⇒約40.7万回/年(約1.3倍)

- 平成22年10月:羽田新国際線旅客ターミナル運用開始
- D滑走路の供用開始



羽田空港ハブ化

- 平成21年度 ユビキタスアライアンス・プロジェクト
(日本の放送方式(ISDB-T)の国際展開)
 - ・アブダビ都市部でのエリア型ワンセグ実証実験実施
 - ・欧州放送方式(DVB-T)との共用条件の設定
 - ・現地通信事業者連携によるその他海外での展開を模索

検討ポイント

- ・簡便な空港ワンセグ等(エリア型ワンセグ)からISDB-Tの海外展開の可能性(ユビキタスアライアンス・プロジェクトの活用など)
- ・来日旅行者の保有携帯端末への配信を行うため、国内でも特区等の限られたエリアでの他国採用の放送方式によるサービスの検討
- ・エリア外視聴、続き視聴などを可能とする携帯電話網を利用した高速通信によるデータ放送コンテンツ配信の検討